Ⅰ　沿革

1903年4月(M36) 宮城県農事試験場　創立　～　名取郡茂ヶ崎村（現 仙台市太白区長町）
1921年4月(T10) 宮城県立農事試験場の岩沼町（現 岩沼市）移転と志田郡古川町（現 大崎市古川諏訪地区）への分場の設置
1927年　（S２）農林省指定試験水稲新品種育成試験を県立農事試験場で開始
1947年4月(S22) 水稲新品種育成試験が農林省直轄の「古川農事改良実験所」として当分場内に移転
1972年4月(S48) 宮城県古川農業試験場に改称して独立公所となる
1980年　（S55）大冷害を契機に耐冷性検定ほ場を設置
1999年3月(H11) 現在地に移転　　※用地50ha　試験ほ場18.8ha（水田17.0、畑1.8）
2001年4月(H13) 宮城県農業センター（現 農業･園芸総合研究所）から水田農業部門を移管。基盤整備分野を新設し、作物育種部、水田利用部、土壌肥料部、作物保護部の４部体制
2019年4月(H31) 組織改編により、水田営農部、作物育種部、作物栽培部、作物環境部の４部体制
岩沼市駐在の原種・原原種生産業務を農業・園芸総合研究所から移管

現在に至る

Ⅱ　研究の背景と目的

『みやぎ食と農の県民条例』
みやぎ食と農の県民条例基本計画

↓

「農業試験研究推進構想(R3～R12年度)」
試験研究が取り組む３つの主要目標 →

Ⅰ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給のための研究
Ⅱ 革新技術の活用による戦略的な農業生産のための研究
Ⅲ 持続可能な農業生産環境の構築に向けた研究

重点テーマ

1 農畜産物の安全性確保に向けた生産管理技術の確立
2 ターゲットを明確に定めた新品種育成と新品目導入
3 優良種子・種畜の安定供給体制の強化
4 アグリテックの推進に向けた農業生産技術の確立
5 農畜産物の高品質・高収益生産技術の確立
6 大規模園芸産地を実現する栽培管理技術の確立
7 遺伝子情報やバイオテクノロジーの実用技術の確立
8 生産基盤の管理技術と農地の高度利用技術の確立
9 農業生産環境の維持・向上のための技術の確立
10 気象変動や異常気象に適応した生産管理技術の確立

Ⅲ　組織機構と職員数

組織機構	職員数			
	行政職	研究職	技能職	計
場　長		1		1
副場長		1		1
総括次長	1			1
総　務　班	3			3
水田営農部		7	7	14
作物育種部		8	6	14
作物栽培部		7		7
作物環境部		10		10
合　計	4	34	13	51